

成人室、老人室 子供室の 広さを考える

図・文/本多和夫

今回は、個室(成人室、老人室、子供室)の広さをテーマとします。家族構成や生活の仕方によって、個室の位置、大きさ、型はいろいろと変化します。

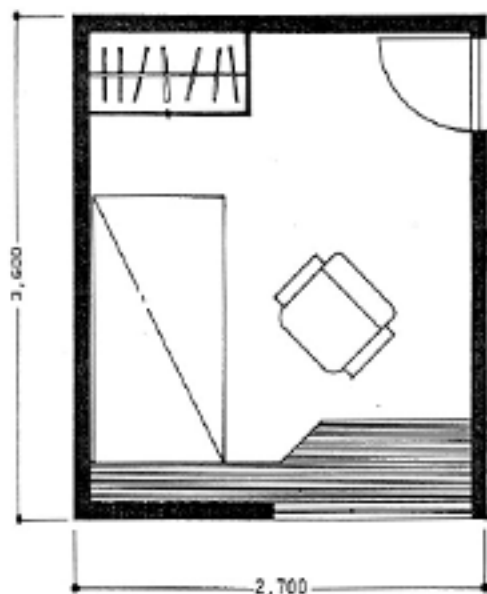
ここでは、それぞれいくつかの例を挙げてみました。家族の生活スタイルや個人の生活リズムをパランスよく考えて、全体の住宅と調和した快適で居心地のよい間取りを考えていきます。

○成人室の広さ

最近の住宅の間取りでは、成人室として個室を設ける家も多く、核家族から多家族で暮らす傾向も見られます。居間・食堂を共有で暮らす、個室には自分の最少限の物を収納するスペースがこの例です。部屋には電話やテレビなどの設備も考えます。

○老人室の広さ

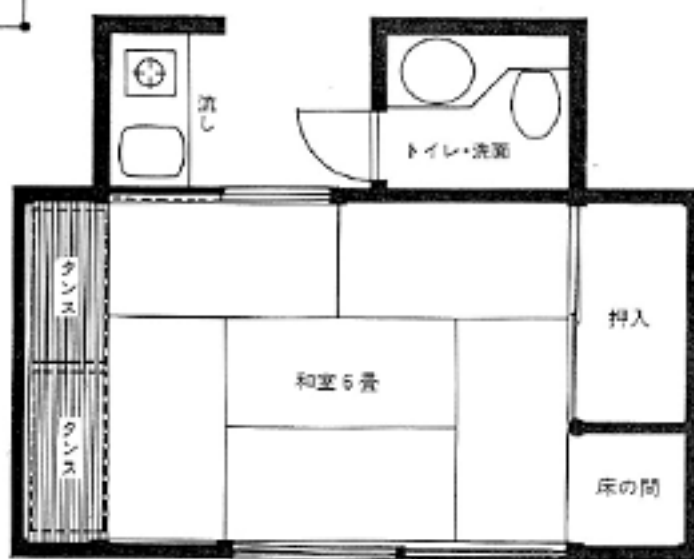
①は、独立型の老人室です。ほとんどの生活がこの部屋で完結できます。玄関・居間



●成人室の広さ(最少)●

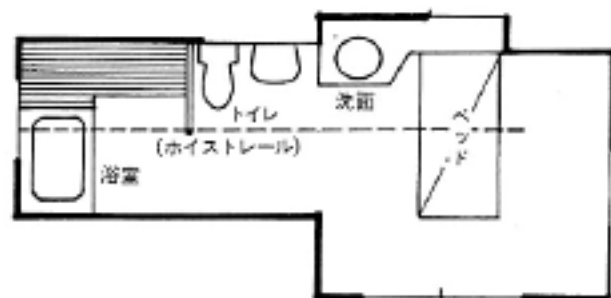
も別に設けるとより独立性が高まりますが、廊下、居間に入出口を一つ設けることで家族との共同感や、夜間の対応がうまくいきます。

②は、依存型の老人室です。庭の南側に日当りを考えて6畳と8畳の二間を設けてあります。老人用の居間としてもそれぞれ個室としても使えるように仕切っています。



①●独立性の高い老人室●

③は、ケアが必要な老人室です。身体が不自由になった場合、車椅子の使用も考えて床の段差をなくし、車椅子の回転スペース1.5mをとりました。また、個室ですので、必要な扉はつけずに、ホイストレールを設置すれば入浴の介護も楽に行えます。



③●ケアが必要な老人室●



②●共有型の老人室●

子供室は、子供の成長に合わせて、住まい方、使い方が変化します。幼児期ではおもちゃ箱の配置が、学童期には勉強机となります。身体の高さが伸び、机・ベッドなども必要になります。部屋の使い方も、

幼児期の遊び場や勉強机を併せたり、セキ・書架となるようにA/Vライフを折り畳んだりする趣味室や、友人と語り合う接室を兼ねた部屋へと、その用途も多様化していきます。

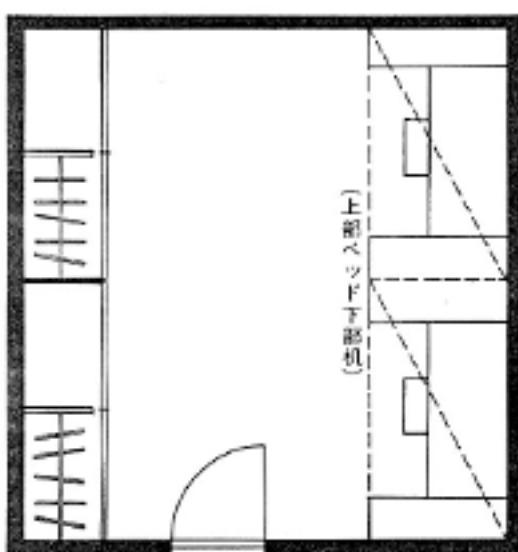
一人用子供室

ベッドと洋服ダンス・本棚を造り付け

こしでもかたです。上段にベッドを設けて仕切り部屋の扉小窓を添えたものです。

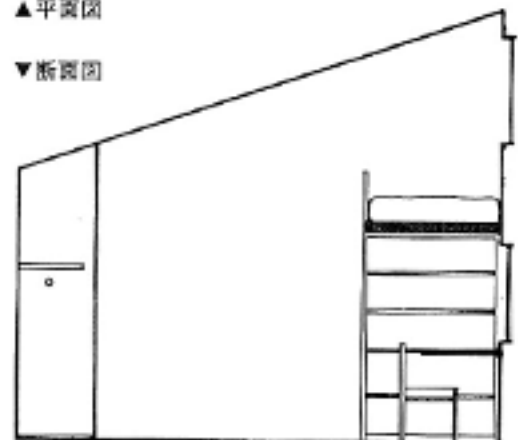
二人用子供室

小部屋を利用して部屋を立体的に使う例です。机の上にベッドを設け部屋の広さを考えています。

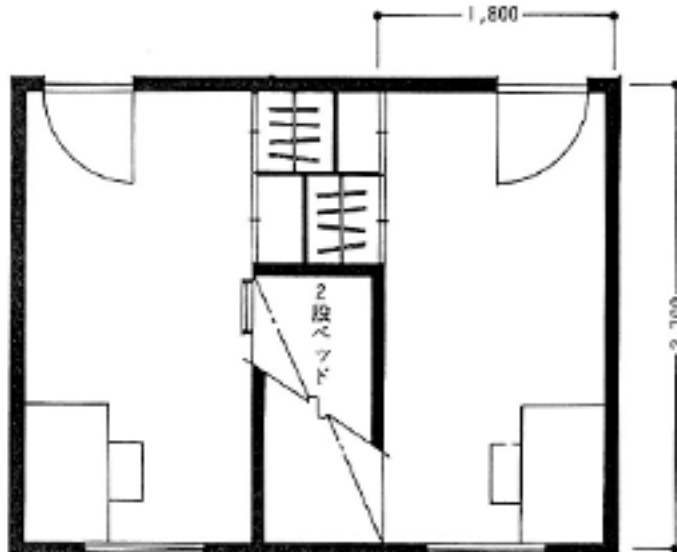


▲平面図

▼断面図

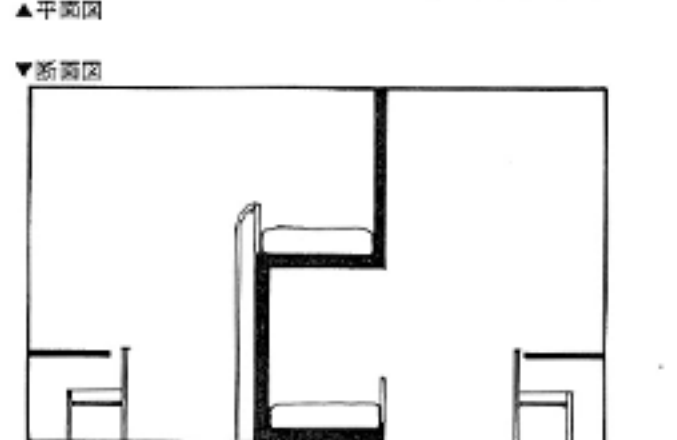


●2人用子供室●

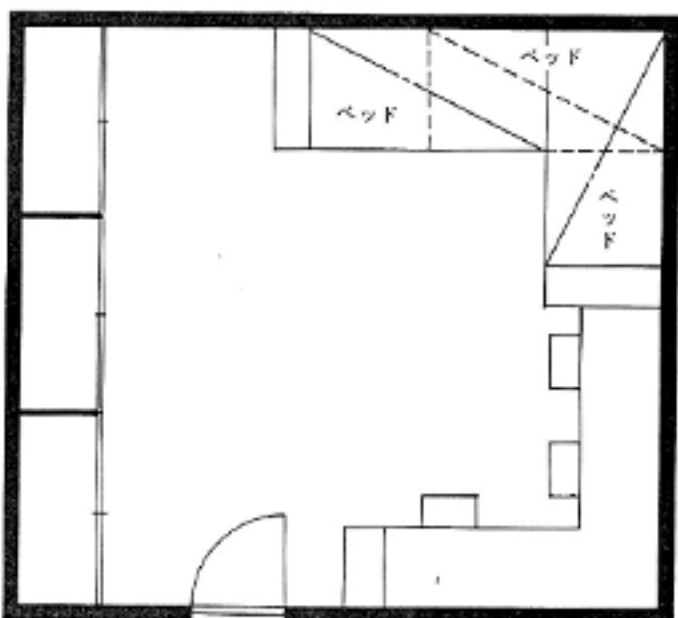


▲平面図

▼断面図

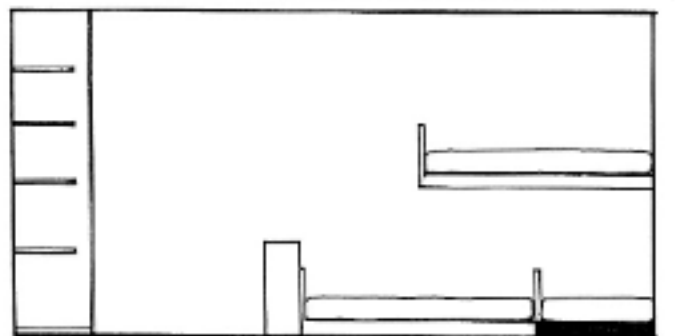


●1人用子供室(2室のケース)●



●3人用子供室(1室で対応したケース)●

平面図



断面図